対象国の条件: スペイン語圏諸国			
研修コース番号:J1804437 案件番号: 1884907			
主分野課題: 社会保障/障害者支援			
副分野課題: 使用言語: 西語			
使用目前	* : 四語 案件概要		
米円弧矢 北海道では、障害者や高齢者が地域の発展の担い手となって共生社会を創りだすCBR/CBIDが実践されている。本研修では、北海道の事例を活用し、障害者自身が地域の発展の担い手となり、地域社会に根ざしたリハビリテーション、インクルーシブな開発を実践するための基礎を理解し、実践の手法を学ぶための導入的研修を行う。研修を通じ、参加者が活動する地域で、関連する機関や地域のリソースと協力した取り組みができることを目指す。			
【安/小口/插】	目標/成果		象組織/人材
実践手法につ	地方政府の行政官、障害者団体を含むNGO職員等がCBR及びCBIDの考え方、分析やいての理解を深め、自国においてCBR及びCBIDを導入できるようになる。		の行政機関行政官、障害当事 NGO職員。障害当事者の参加
重要性につい 【単元目標2 CBR/CBIDの方	り組みを理解するための背景となる社会モデル、障害者権利条約、当事者運動の て理解する。 】 法論である地域社会に根ざしたアプローチ、CBRマトリックスに示されるCBR/CBID	、地域開発にの組織との連	に限らず、教育、労働、保健 関わる組織も対象とする。他 携に積極的な組織の参加を推
の内容である 礎的な枠組み 【単元目標3 地域社会に根	保健、教育、社会参加、生計とエンパワメント、また「障害と開発」に関する基の理論を理解し実践できるようになる。 】 差した取り組みを行っている北海道の当別町や浦河町の実践の分析から、地域の		
CBR/CBIDの実 【単元目標4	当事者といった様々なアクターの連携を理解し、共生社会形成のための具体的な 践ができるようになる。 】 容を踏まえて、CBR/CBIDを自国において実践するための計画を立てる。		
			2018/10/8~2018/10/27
・研修参加に 【講義】	分野の現状と課題をカントリーレポートに取り纏め、課題分析を行う。 当たっての問題意識と帰国後の活用計画について所属先と研修員とで協議する。	本邦研修期間	
・障害者運動	条約等国際的枠組み と自立生活の理解 超えた連携の重要性と日本および北海道での実践	担当課題部	人間開発部 JICA北海道(札幌)
・CBR/CBIDマ 【事例分析】 ・当別町:障	トリックスを利用した分析手法 害者や高齢者、子どもに関する取り組みを連携させ、障害者等が地域の発展の担 躍している事例		
りに対して好 【発表/討論】	神障害者の自助グループや生計向上、防災の取り組みが町の共生と防災の街づく 影響を生んでいる事例 ポート、アクションプラン	所管国内機関	
		関係省庁	2017 2016
	3田 本 r h	実施年度	2017~2019
主要協力機関	調整中		
特記事項 及び ホームページ			

地域社会に根差したリハビリテーション(CBR)及び地域社会に根差したインクルーシブな開発(CBID)の導入研修 Introduction to Community Based Rehabilitation (CBR) and Community Based Inclusive Development (CBID)

継続